

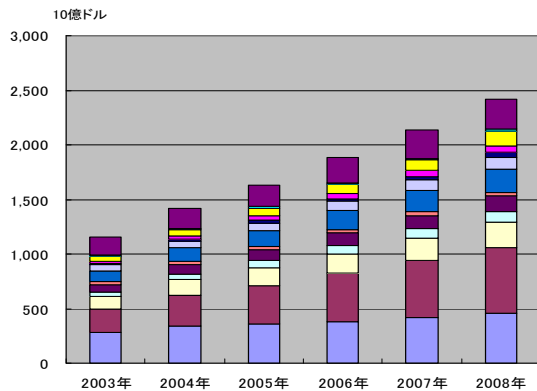
要約

1. アジア太平洋地域の貿易の全体的動向

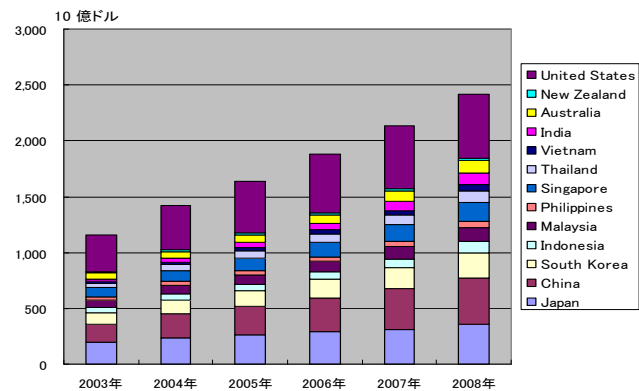
(1) アジア太平洋地域の貿易の拡大と国際分業の深化

近年（2003年～2008年）のアジア太平洋地域の輸出入額は5年で2倍以上になる高い伸びである。輸出では中国の躍進が目立っている。アメリカは輸出に比べて輸入がきわめて大きく、アジア太平洋諸国に市場を提供している。

この期間に中国がASEAN諸国との貿易結合度を高めたことにより、従来のアメリカ、日本、ASEANのグループに中国を加えた新しい貿易グループが形成されていることが観察される。



アジア太平洋諸国間の輸出額の推移
資料: Global Trade Atlas
注: 各国の輸出額は当該国から他のアジア太平洋諸国への輸出合計額



アジア太平洋諸国間の輸入額の推移
資料: Global Trade Atlas
注: 各国の輸入額は他のアジア太平洋諸国から当該国への輸出合計額

(2) 中国の加工貿易の拡大と日本の地位低下

中国の「加工貿易」（中国独自の分類であり、輸出用として原料輸入等の優遇を受けた「機械・電機」の貿易）は、アジア太平洋諸国における貿易構造に大きな影響を与えている。近年中国からアメリカへの労働集約型商品（「皮革・繊維」）及び「機械・電機」の輸出も急増している。一方で「鉱物・資源」の輸入が大幅に拡大している。

我が国は「農水産物」、「鉱物・資源」等を同地域から輸入する一方で、中国、ASEANを加工貿易の拠点として利用している。その結果、アメリカ、ASEANへの「機械・電機」の輸出では、中国が我が国のシェアを奪う形で拡大している。

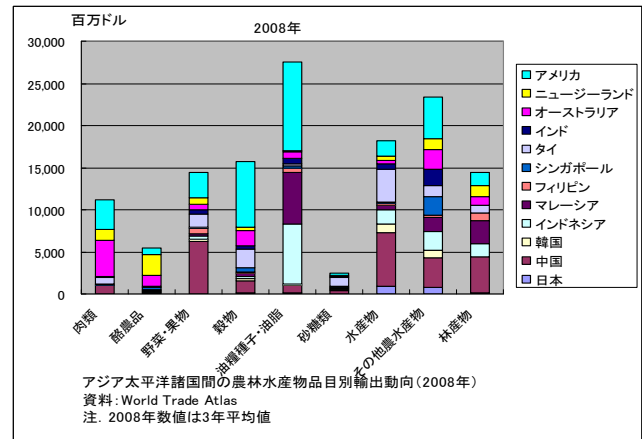
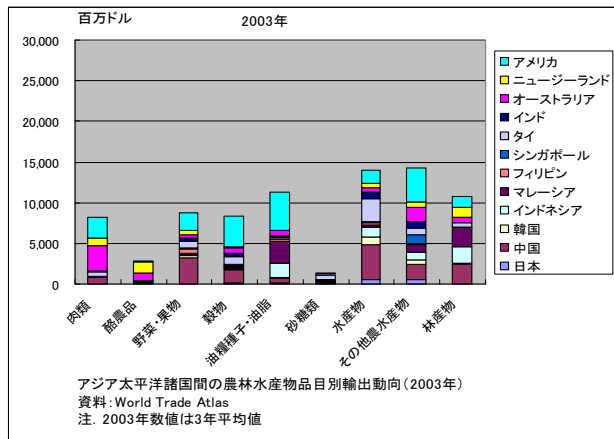
2. アジア太平洋地域の農産物貿易

(1) 輸出

農林水産物貿易でも03年から08年にかけておおむね倍増している。特に大きく伸びているの

は、「油糧種子・油脂」、「水産物」、「穀物」、「野菜・果実」である。

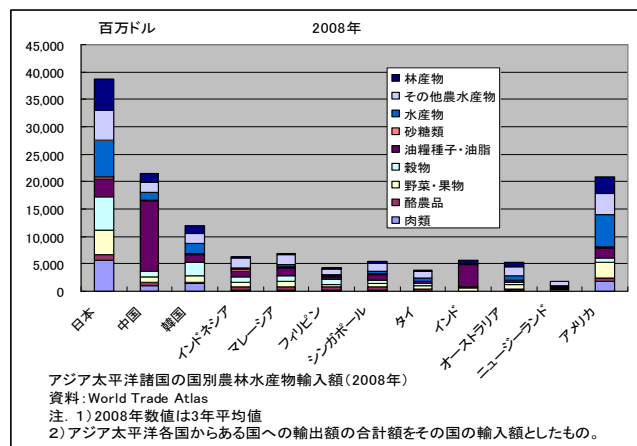
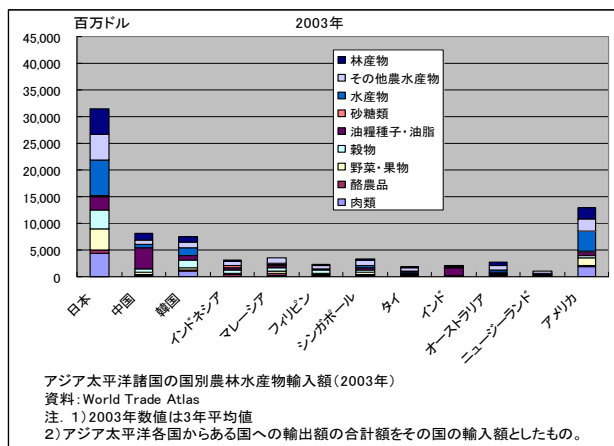
アジア太平洋諸国の農水産物の貿易では、経済成長に伴って市場の拡大が顕著な「油糧種子・油脂」（大豆、大豆油、大豆かす、パーム油）の動向が注目される。



(2) 輸入

アジア太平洋諸国の農産物の輸入では、日本、中国、韓国、アメリカの輸入額が大きく、とりわけ日本の輸入額が大きいこと及び中国の急増が目立っている。日本の輸入は全品目的に増加しているのに対し、中国は「油糧種子・油脂」の増加が大きい。

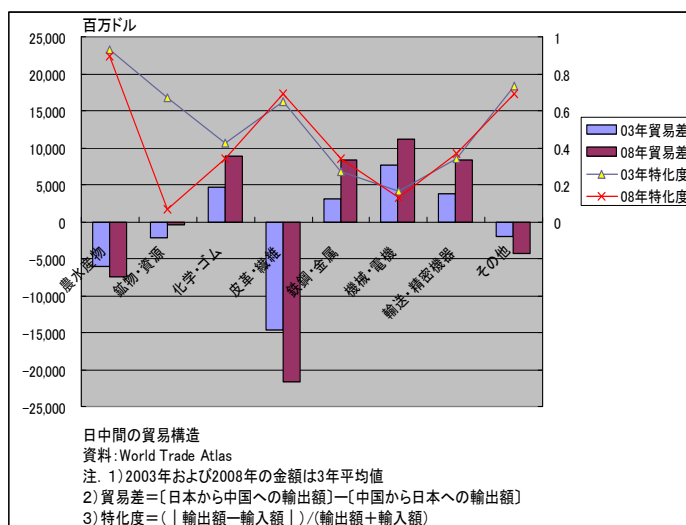
米国は「水産物」の輸入増が目立っている。



3 我が国の二国間貿易構造

(1) 対中国

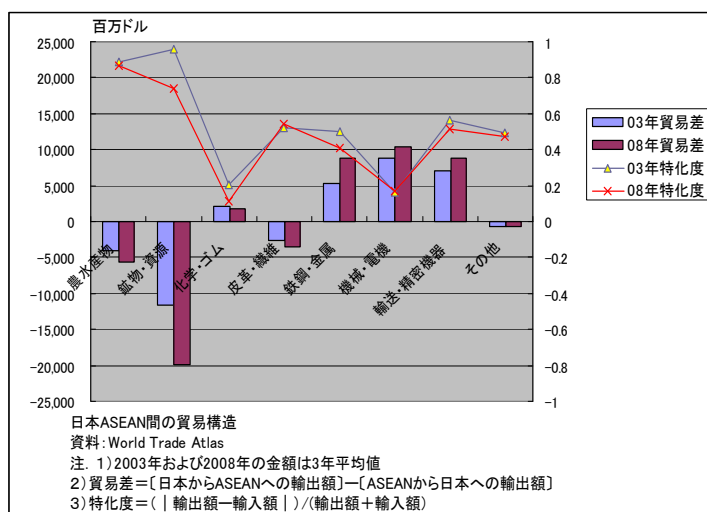
我が国と中国の貿易構造を見ると、日本から最も輸出超過となっているのは、「機械・電機」であるが、この分野は輸出、輸入ともに大きいことから特化度は低い。また、「農水産物」は我が国の輸入超過で特化度が最も高くなっている。また、最も輸入超過となっているのは、「皮革・繊維」で、特化度も高く、金額も増加している。



(2) 対アセアン

我が国の輸入超過品目は「農水産物」、「鉱物・資源」、「皮革・繊維」であり、「農水産物」「鉱物・資源」においては特化度がきわめて大きく、「鉱物・資源」の輸入超過額が急増している。

我が国からの輸出超過は「鉄鋼・金属」、「機械・電機」、「輸送・精密機械」であるが、その中の「機械・電機」は、我が国の輸入も大きいことから特化度は低い。

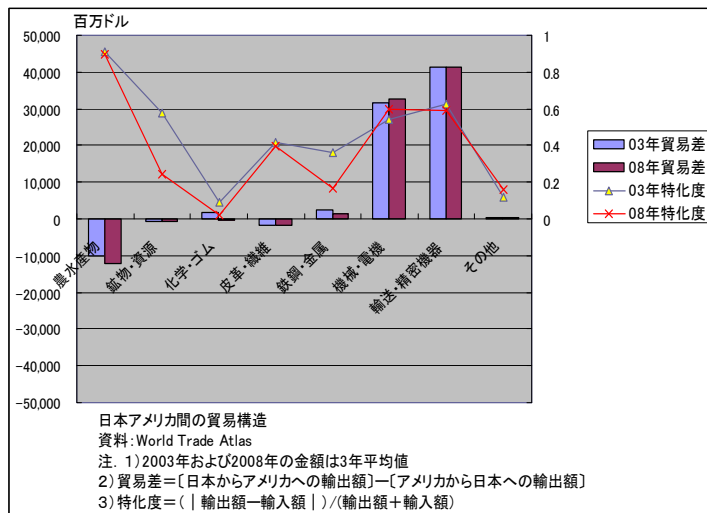


(3) 対米国

我が国の輸入超過では「農水産物」が最も大きく、特化度がきわめて高い。

また、我が国から米国には「機械・電機」、「輸送・精密機械」が大きな輸出超過となっており、特化度も比較的高い。

日米間の貿易構造は、03年と08年とはほとんど変化がない。



4. 上位センシティブ品目の設定から見た ASEAN+1 型 FTA の特徴

(1) ASEAN+1 型 FTA : 様々な自由化レベルの存在

ASEAN+1 型 FTA (AJFTA (対日本), ACFTA (対中国), AKFTA (対韓国), AIFTA (対インド), AANZFTA (対豪州・NZ)) の 5 つの協定は、自由化レベルに様々な違いがある。AANZFTA (対豪州・NZ)) が最も自由化レベルが高く、逆に AIFTA (対インド) が最も低い、そして、AJFTA (対日本) と AKFTA (対韓国) がその中間にある。

(2) ASEAN+1 型 FTA における上位センシティブ品目 : 各国の貿易戦略

FTA 協定における上位センシティブ品目 (除外品目, 高度センシティブ品目等) は、各国政府の貿易戦略上、幼稚産業として保護育成を目的とするものと、国内産業従事者、特に農民層への大きな影響を避けること目的とするものの二つに大きく分けられる。その他、担税物資や軍事関連のものが上位センシティブ品目となっている。また、上位センシティブ品目の数が極めて多いことから、AIFTA (対インド) の自由化度のレベルが最も低いことが確認される。

表 4 桁ベースで整理した上位センシティブ品目数

	中国	韓国	インドネシア	タイ	ベトナム	インド	オーストラリア	ニュージーランド
AIFTA	-	-	126	163	154	参考: 6桁で489	-	-
ACFTA	39	-	19	37	2	-	-	-
AKFTA	-	26	16	-	12	-	-	-
AJCEP	-	-	106	38	52	-	-	-
AANZFTA	-	-	26	24	30	-	0	0

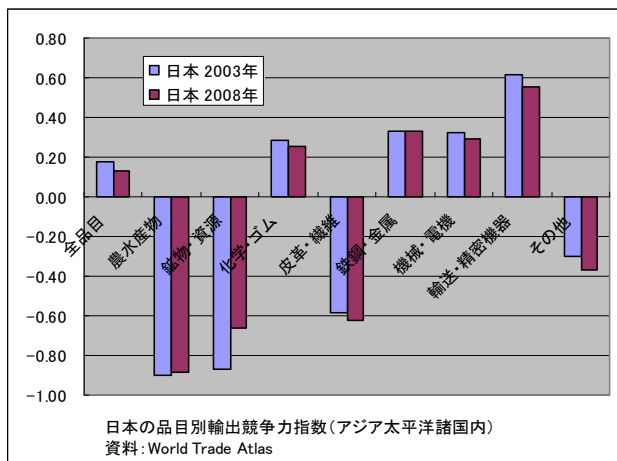
資料: 農林水産政策研究所

5. 各国の貿易動向のポイント

日本：全般的な輸出競争力の低下

我が国はアジア太平洋地域との貿易において、「農水産物」、「鉱物・資源」、「皮革・繊維」の競争力指数が大きくマイナスとなっており、農業、労働集約型産業に競争力がなく、また、資源、原料を外国に依存していることがわかる。また、すべての輸出品目で輸出シェアが低下しており、競争力指数が低下している。

注：競争力指数＝（輸出－輸入）／（輸出＋輸入）



中国：加工貿易で大きな影響。労働集約型品目の輸出と土地利用型農産物の輸入増加にも要注目。

労働集約的な産業で輸出競争力が強かったが、農業部門から資本集約的な部門に移行している。農産物では、労働集約的な野菜・果実が強いが、土地利用型の品目である穀物の輸出競争力は低下している。一方、輸入では、油糧種子の輸入拡大が顕著である。

韓国：日本に似た貿易構造。加工貿易と農水産物輸入の増加。

貿易は加工貿易が中心であり、原材料を輸入して、製品を輸出する貿易構造にある。農水産物は純輸入国であり、貿易自由化が農水産物の輸入を拡大している。

インドネシア：「鉱物・資源」輸出国。パーム油輸出と米、小麦の輸入。

鉱物・資源や農水産物の輸出額が高くなっている。日本、韓国、中国、豪州に対しては、鉱物・資源の輸出割合が高く、一方、インドやASEAN 諸国には農水産物の割合が高い。農産物貿易は出超であり、油糧種子・油脂を輸出し、穀物、その他農産物を輸入している。

タイ：伝統的な農産物輸出国。工業では中国との競争の中で、自動車輸出の拡大。

伝統的な農産物輸出国で、酪農品を除いて、農水産品の競争力が強い。工業では中国との競争のなかで、労働集約的産業の競争力が停滞しているが、一方、自動車関連産業の輸出が増加している。

ベトナム：新興農産物輸出国。労働集約型の工業品の他、資源輸出国の性格もある。

FTA の締結や、2007 年の WTO 加盟もあり、年々貿易が拡大している。2008 年には主要な輸出品である米や石油の国際価格急騰の影響が顕著である。輸入ではアメリカからの農水産物（特に肉類）、その他の品目では中国からの輸入の拡大が目立つ。競争力の強い品目は農水産物、鉱物・資源、皮革・繊維である。一方、機械・電機、輸送・精密機器は弱い。

インド：サービス貿易で出超，物品貿易で入超。農水産物は出超。油糧種子・油脂の動向に要注目。

物品の貿易では入超国で，基本的にアジア太平洋地域における市場提供国。貿易相手としては中国，アメリカ，シンガポールが大きい。ただし農水産物の輸出ではベトナム（大豆かす）が，輸入ではインドネシア（パーム油）が重要である。農水産物は出超であるが，油糧種子・油脂の輸入増加が顕著である。農水産物，皮革・繊維の競争力指数の低下が注目される。

豪州：一次産品輸出国。中国との貿易結合度が急速に上昇。

鉱物・資源，農水産物等の一次産品輸出に特化した貿易構造を有し，貿易額は急速に拡大している。特に中国向けの鉱物・資源輸出の拡大が急増中である。輸入では，ASEAN，中国からの輸入が急増している。

農水産物の輸出は肉類，穀物，酪農品，その他(酒類)に特化しており，日本向けが圧倒的に多いが，ASEAN への輸出も急増中である。

ニュージーランド：畜産関連品目の輸出に特化。豪州と高度に結合。ASEAN との貿易も拡大中。

アジア太平洋諸国との間の貿易はわずかに入超状態。輸出品は肉類，酪農品，皮革・繊維など畜産関連の品目に特化した構造である。豪州との貿易結合度が極めて高いが，ASEAN や中国向けも輸出も増加しており，米国や日本向け輸出の地位の低下が見られる。輸入品も豪州への依存度が高いが，ASEAN からの輸入も急速に増加している。

農水産物の輸出は圧倒的に酪農品（約 4 割）であり，米国，日本向けのシェアが低下する一方で，ASEAN，豪州，中国向けが急増している。

アメリカ：輸出市場提供国。農水産品のみ強い輸出競争力。

アジア・太平洋地域の貿易では「農水産物」以外の品目は全て輸入超過となっており，同地域での巨大な市場を提供している。その性格に変化は見られない。

アメリカはアジア・太平洋諸国に対して農水産品以外の貿易収支は赤字であり，大きな市場を提供している。日本と韓国から知識・技術集約的な輸送・精密機械と資本集約的な機械・電機を輸入している。また，中国，ASEAN からは労働集約的な皮革・繊維と資本集約的な化学・ゴム，機械・電機を輸入している。これは，中国と ASEAN が欧米や日本企業の多国籍企業の生産拠点となっていることを反映している。

農水産物貿易は日本，中国，韓国に穀物，油糧種子・油脂，肉類を輸出し，ASEAN から水産物を輸入するという構造になっている。

6. ASEAN+1 型 FTA における各国の上位センシティブ品目選択のポイント

中国：ASEAN との比較優位構造の変化と農産物貿易の戦略

ASEAN に対して労働集約的な農産物の競争力を喪失してきているため，トウモロコシや米な

どの農産物の他、加工品である小麦粉、大豆油、ショ糖も高度センシティブ品目に指定して、原料部門（小麦、大豆、サトウキビ）の保護をはかっている。

韓国：農水産物を保護する FTA だが、国内農業の合理化、競争力強化も行っている。

AKFTA において韓国は多くの農水産物を除外品目に指定している。米は、アメリカやチリなど他の FTA でも常に除外品目になっている。また、にんにく、玉ねぎ、トウガラシなどの香味野菜も、食文化の影響から特別扱いされてきた品目である。

インドネシア：国内産業との競合を考慮するが、農産品の除外は少ない。宗教や軍事の影響。

国内産業と競合する品目を除外している。全協定で共通なのは、3 つの農産品（米、穀粉、糖類及び砂糖菓子）のみである。また、宗教上の理由からアルコールに関連した品目を多くの協定で除外している。その他、軍事に関連した品目も相手国に応じて除外品目となっている。

タイ：多くの農産物と自動車関連品目を保護。

米をはじめ多くの農産品を除外品目に指定している。鉱工業品で 4 つの協定で除外されているのは生糸のみである。鉱工業品では、タイが輸出産業として育成している自動車産業関連の品目（製品や部品）を上位センシティブ品目として、幼稚産業の保護を図っている。

ベトナム：小規模な農民層への保護を考慮

国内の農業部門、特に比較的貧しい部門に与える影響の大きい品目を共通に除外品目にしていく。家禽の卵（小規模農家）、砂糖（貧しい生産地域）、たばこの葉（少数民族）などがある。

インド：自由化レベルの低い FTA と農業部門への強い保護。

AIFTA は除外品目数が 489 と非常に多い。実質的な貿易の増加よりも、まずは FTA 締結という実績を上げることが図られた。多くの農産品が除外品目になっており、農業分野に対する強い保護政策が行われている。またセンシティブ品目の輸入は、政府がモニターしており毎月、結果を公表している。

豪州、ニュージーランド：両国経済の緊密化の進展の下、高い自由化レベルで FTA 締結。

AANZFTA は 2020 年には全ての品目で関税全面撤廃。ただし、皮革・繊維部門には、比較的高い関税率が長期間持続する「準センシティブ」品目的なものがある。

（参考）アメリカー豪州 FTA

米国は乳製品と砂糖、豪州は乗用自動車（中古）のみを関税撤廃の除外品目としている。（以上）